

令和5年度 第3回会津美里町高田地域まちなか賑わい創出協議会

日 時 令和5年10月26日 木曜日 18:30 開始

場 所 会津美里町役場 2階 大会議室

司会： 産業振興課長補佐

次 第

1 開会 副委員長

2 委員長あいさつ

3 前回までの振り返りと本日流れ 事務局

3班のグループワーク

誰が聞いてもわかりやすい、「にぎわい」を創り出すためのキャッチフレーズをつくる。

進行役は、事務局職員

各班で、発表役をひとり、もしくはふたりを立てて発表。

4 協議事項

グループワーク

Aにぎわいづくりの方針を2～3つ（ワークシートを作成）

何を真ん中におくか、何で人の交流を生み出すか？複数の組み合わせ。

フリースペース、飲食、趣味、世代交流、スポーツ、物販など・・・

誰が聞いても分かりやすくイメージできるフレーズ、スローガン、パーパス

B方針を実現のために空き家を含め、商店街をどう利活用していくか？

Cその強力な推進力として、旧高田公民館をどう利利用していくか？

④ 各班の発表

⑤ 委員長のまとめ

5 その他 事務局

6 閉会 副委員長

会津美里町 高田地域まちなか賑わい創出協議会委員

No.	役職	氏名	フリガナ	種別	肩書	役職
1				商工会		
2				学識経験者		
3				自治区長		
4				金融		
5				商工会推薦		
6				観光協会推薦		
7				地域おこし協力隊		
8				地域づくり		
9				地域づくり		
10				商店街		
11				商店街		
12				飲食		
13				商店街		
14				商店街		
15				高田中PTA副会長		
16				農業		
17				福祉		
18				農業		

会津美里町地域振興アドバイザー

			アドバイザー		
--	--	--	--------	--	--

事務局

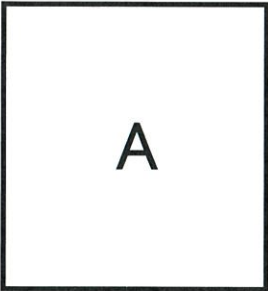
1			産業振興課長
2			産業振興課長補佐
3			産業振興課商工観光係長
4			産業振興課商工観光係
5			産業振興課商工観光係
6			会津美里町商工会

0242-55-1191

ホワイトボード

入り口

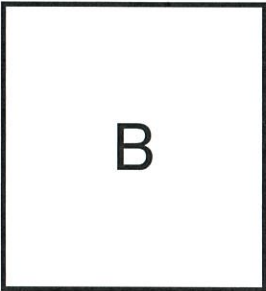
事務局



- 1
- 2
- 3

- 4
- 5
- 6

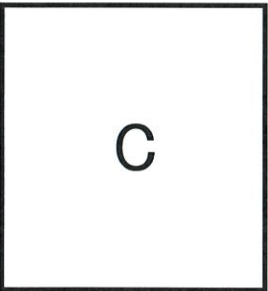
事務局



- 1
- 2
- 3

- 4
- 5
- 6

事務局



- 1
- 2
- 3

- 4
- 5
- 6

事務局席及び
アドバイザー

まちなか賑わい創出協議会スケジュール

令和5年10月26日 現在 最新

R5年度		本日										
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
回数	第1回		第2回			第3回	第4回		第5回	第6回		
日時	7月14日(金) 19:00予定		8月31日(木) 18:30予定	9月29日(金) 18:30予定	10月6日 10月13日 18:30予定	10月26日(木) 18:30予定	12月8日(金) 12月7日(木) 18:30予定	1月23日(火) 18:30予定	2月29日(木) 18:30予定			
場所	役場大会議室		大会議室	大会議室	大会議室	大会議室	大会議室		大会議室	203.204会議室		
		1回目アンケート 実施 1000		12名	4名				2回目アン ケート実施 1000			
内容	顔合わせ	この地域に足 らないもの、今 後望むものの 洗い出し	アンケート結 果を受けて 住民の課題 を把握	1回目ワーク ショップ	2回目ワーク ショップ	ワークショップ について	若い 世代、 高校 生、中 学生、 保育 園の 保護 者等、 もつと 広く意 見を聞 く必要 がある。	方針の素案を3 つくらいに絞る	アンケート結果 を受けてひとつ 方針を達成する 上で 数字的目標を いくつかあげる 具体的にどうし ていくか？ どのような施 策、予算が必要 か？	まとめ		
	現状把握											
	課題提起											
	今後どうして いくか											
	先進地事例紹 介											
	スケジュール 確認			先進地								
	アンケート項 目吟味				キーワード、ス ローガン、パー パス、標語 方針の素案の アンケート項目 吟味	キーワード、ス ローガン、パー パス、標語 方針の素案の アンケート項目 吟味	キーワード、ス ローガン、パー パス、標語 方針の素案の アンケート項目 吟味					
	旧高田公民館 の利活用	跡地をどう活 かすか？	旧高田公民 館の利活用	跡地をどう活 かすか？	跡地をどう活 かすか？	跡地を達成する ためにどう活 かすか？						
R6年度予定												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	9月	10月	10月	10月	12月	1月
コンサル決定		第1回			第2回				パブコム	パブコム		第4 回

②サブ

例) Eスポーツカフェ
対象：子育て、高齢者

②サブ

対象：

④必要なものは？

建物、駐車場、飲食スペース、
運営組織

④必要なものは？

①メイン

対象：

例) こども食堂を中心としたプレイタウン
対象：メイン 子育て世代
サブ 支援でリタイヤ世代

②サブ

対象：

②サブ

対象：

コミュニティ

人と人のつながり

④必要なもの

④必要なもの

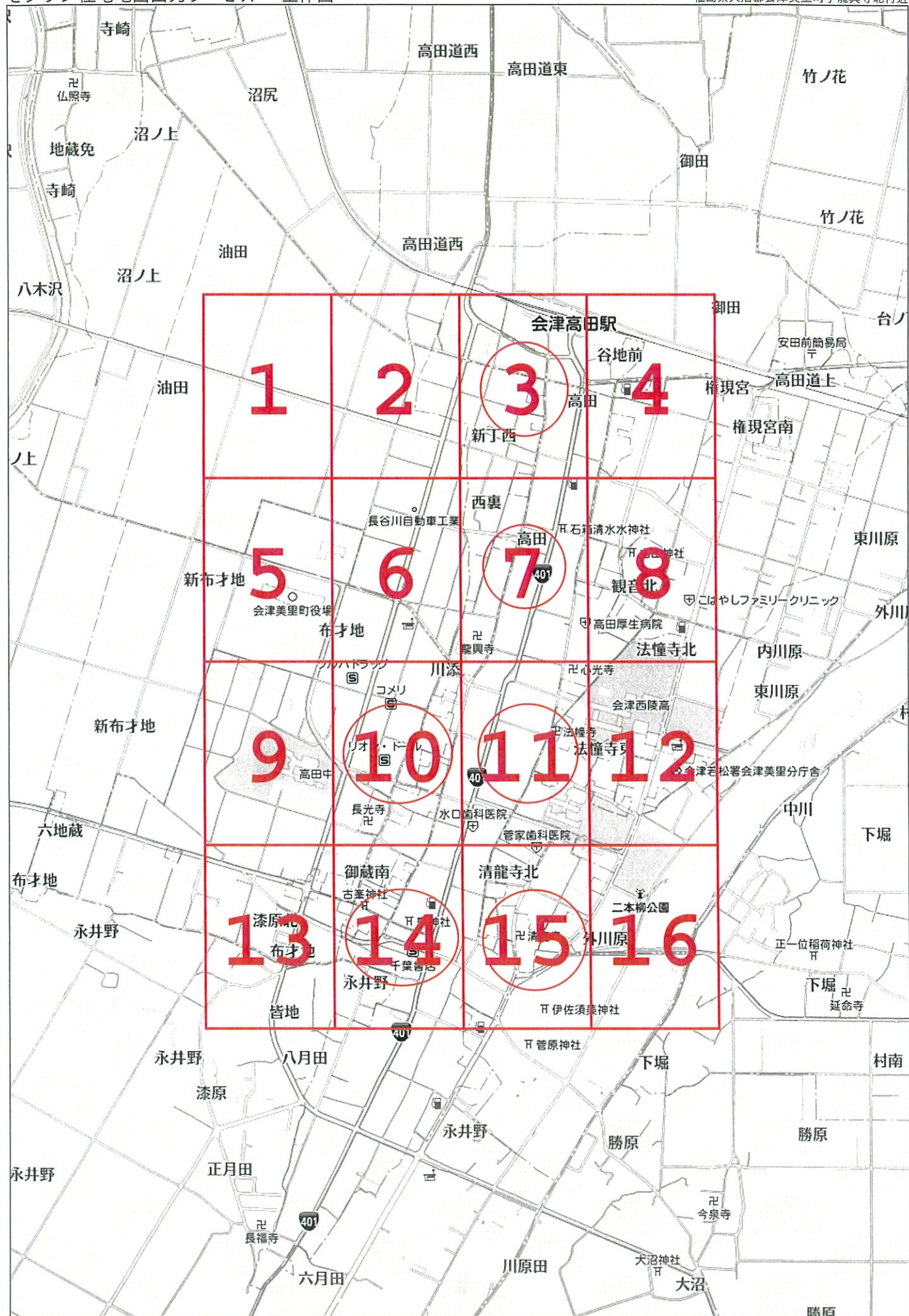
③D 上を踏まえてキャッチフレーズ、スローガン、パーパス

例) 家族もひとりも、美味しく、楽しく、思い出を生み出すプレイタウン

高田地域空き家調査 利活用が可能だと思われる空き家一覧

R5.2.8

No.	住所	面積 (㎡)	
3	字柳台甲 2 3 2 1 番の 1	849.95	小売
11	字高田甲 2 6 7 5 番地	2096.45	麴店
12	字高田甲 2 6 7 8 番地	852.5	事務所
19	字高田甲 2 9 7 3 番地	522.87	精肉店
21	字高田甲 2 7 1 9 番地 1	621.82	下駄屋
27	字高田甲 2 9 1 3 番地 1	521.12	雑貨屋
29	字高田甲 2 7 3 9 番地 1	542.82	書道教室
30	字高田甲 2 8 9 5 番地 2	961.74	セブンイレブン
34	字高田甲 2 7 5 6 番地 1	254.94	呉服屋
38	字高田甲 2 8 8 2 番地 1 2 8 8 2 番地 1 - 2	231.4	パチンコ
41	字高田甲 2 8 6 8 番地 2	1213.11	百貨店
46	字高田甲 4 4 1 4 番地	523.49	食品会社
48	字高田甲 2 8 2 1 番地 2	710	医院
50	字高田甲 2 8 7 3 番地 1 - 3	675.35	スナック
		14	箇所



■令和５年度第１回高田地域まちなか賑わい創出協議会 開催記録

日 時：令和５年７月１４日（金） １９：００～２１：００

場 所：会津会津美里町役場 ２階 大会議室

出席者：１６名／１８名

事務局：６名

１．開会

（１）事務局紹介

（２）委嘱状交付

２．町長挨拶

３．委員自己紹介

４．委員長及び副委員長の選出

５．協議事項

① 委員の役割、スケジュール

（事務局より資料「協議事項①」により説明）

② 現状の把握、人口推移など

（事務局より資料「協議事項②」により説明）

③ そもそも「賑わい」は必要か？

④ この地域に足りないもの

⑤ どうすれば、この地域に賑わいをもどせるか？にぎわいの種類、ねらう世代

質問（委員）

要するに、お金がちゃんと儲かる町になっているという賑わいか。

回答（事務局）

お金も賑わいの一つ。人を集めるのも賑わいの一つ。お祭りのように文化的な活動という賑わいもある。

この町はどの賑わいを目指すかというのを確認しておきたい。

賑わいはいらないという意見もあると思う。

意見（委員）

普段私が商店街に買い物に行くかということ、買い物に行くというよりは店主に会いに行く。人に会いに行くというイメージが高田の商店街はある。

もともと車がなかった時代に歩いていた昔からの道なので、今、車の動線がどうなっているかという調査はやったほうがいいと思う。実際に車でどこに行きやすいかなど。

高田の商店街は伊佐須美神社の近くにあるが、割と町民向けのお店が多い。昔、生活に必要な

備品を買いに行ったりしたが、観光客が来ていたかというところとわからない。神社と商店街が切り離されてるイメージがあるが、もともと神社やお寺がたくさんあり、門前町の雰囲気を残している。坂下の国道 49 号線沿いや喜多方のような商人のまちではない。本郷は職人の町で商人のまちだが、高田が商人のまちかというところと少し毛色が違う気がする。商工業メインで稼ぐのがこのエリアの人の質に合っているかということから考えたほうがよいと思う。

昔は全部まちの中で担えたが、今は車があり、会津若松市など広域圏内が生活圏である。そもそも外向きだったのか内向きだったのか、高田エリアの気質に合わないことをやっても難しい気がする。賑わいは競争だと思うので、競争に向いてるかどうかなど。

会津美里町の賑わいも、エリアで違う。

意見（委員）

福祉計画策定ワークショップを新鶴・高田・本郷で地区別に実施したが、新鶴と本郷では全く意見が違うし、高田も、山のほうと町のほうで全く違う。本郷は会津若松市のベッドタウンだという認識で、新鶴の人はガソリンを入れに行くのも大変だという生活に直結するような話。

高田では、山側は新鶴の考えに近いが、町側は本郷に近い考え。そういったところで、住む町にするのか、誰かに来てもらう町にするのかという方向性は明確にしておくべき。

公民館の跡地利用というところも含めて考えると、喜多方にあるような子どもが屋内で遊べるような子育ての施設を建てるなど。

質問（委員長）

賑わいは必要か。

意見（委員）

町はこのあと破綻していく。人がいなくなって、2060 年には 8,000 人。そうなると人は住んでいないと駄目なので、必要なのではないか。

意見（委員）

本郷地区は会津若松市のベッドタウンだという意見があったが、今年の 3 月に会津信用金庫の門田支店がなくなった。門田地区の金融機関は、今は会津商工信組の門田支店が 1 店舗だけである。近くに金融機関がない地区の方がどこに預金をするか調査したところ、本郷支店に集まってきた。そういうところから見ると、会津若松市のベッドタウンが本郷地区になっているのが現状だと思う。

高田地区は土地も有効にあり、農地も多いが、農地転用や色々な手段があると思う。空いている土地もたくさんあると思うので、人の賑わいというのが今後すごく大事になってくるのではないかと痛感している。

人がいなくなれば税金の収入も途絶え、町の予算が取れなければ町の動きも止まってしまう。

意見（委員長）

おそらくこの委員を依頼された方や応募した方は、賑わいを作っていこうという思いで参加されたと思っている。そういう意味では、現状の中で賑わいをどう作っていくかだと思う。

人がいないと何をやっても賑わいは創出できない。それが一番難しい話でどうするのかということだが、少しずつでも色々な分野の賑わいを繋げていくことかと思う。一つ一つではなく、大きく成功しようとするのではなく、繋げていく形をしていけば、それがある程度持続されると

いう思いがする。

意見（委員）

私も基本的には人がいないと賑わいはないと思う。

商店街が内向きなのか外向きなのかという話を聞き、まさしくそう思ったところもあった。

実際に高田の商店街に買い物に行くかと言えば行かないし、会津若松市に行ってしまう。昔は寿司屋も高田のまちなかにあり、祖父がそこで取ってくれた寿司を食べたが、今は会津若松市に行けば 100 円で安く食べられるので、どうしてもそういうふうになってしまうのかなと思う。

伝統行事や祭りがあっても、人がいなければなくなってしまう。人を確保するにはどうしたらいいかと言うと、若い世代を移住させることを考えれば、極端な話、補助金やお金である。

若い世代はお金がかかる。少子化問題も、お金がかかるから子どもを産まない、家を建てられない、それならいい補助金があるほうに行こうという、若い人はそういう考えになると思う。

例えば、家を一軒やるから家族でここに住んでくださいと言えば、おそらく若い人がたくさん来る。そうすれば、子どもも増え、小中学校も賑わい、子どもが活気付けば大人も笑顔になってくるという循環をしていくと思う。

意見（委員）

私は観光客と話をすることが多いが、伊佐須美神社に来て他に観るところがあるかと聞かれたときに、無いとしか言えない。商店街もお勧めではない。桜の季節やあやめ祭りのときは神社にものすごく人が来るが、そこから流れない。どうしたら商店街の道まで流れるかと考えたときに、「会津美里町っていいところだよ」と皆が言ってくれる。歩いていて気持ちがいいとか。雰囲気的大事で、町並みが歩きたくなるまちだったら、そこに何もなくても人が歩いていくと思う。歩いていたら、そこに店があったらいいなとなり、そこで店を出してみたいという人も増えるのではないかなと思う。

意見（委員）

高田の商店街がほかの商店街と違うのは、後ろが家になっていること。住んでいる方がお店を営んでいるので、そこが都会の商店街などとは違う点なので、その住人の方がどうかというのを知りたい。

高田の商店街周辺には小学校や中学校があり、子どもの帰り道になっている。私は子育て世代なので、商店街が子どもやお年寄りなど幅広い世代が交流できる場所になって欲しいと思う。

意見（委員長）

実際、昔の商店街は色々な役割を持っていたと思う。単なる賑わいだけではなくて、地域づくりをはじめ、近所の人たちの交流だったり、情報交換だったり、子どもたちの安全や防犯など色々な見守りも商店街がやっていたはず。子どもがいないこともあるが、そういうのが今はもう全然なくなってしまったということかと思う。

高田の商店街はどちらかと言うと、商業専門というより、半商反農の家が多い。そういうこともあり、商店街としての発展性が見られないところもあるかなと思う。

伊佐須美神社があり観光客も多いが、観光客が商店街に行って買い物をするかというと、おそらく買わない。要するに、伊佐須美神社と商店街の商品が繋がっていないと思う。昔は交通手段

もあまりなかったので地域の人が買い物に来ていたから成り立っていたが、今はどんどん外へ行ってしまふ。せっかく伊佐須美神社に来た人が買い物をしたくてもマッチしたものを売っているところがない。そこで商店街をそれにマッチしたものを売するような店に変えていくという場合に、実際もう商店街も力がない。受益者負担だということでは無理な話だと思われる。

町なりがそれなりの覚悟を持って、色んな部分で繋げた商店街づくりを、地域の文化なりそういうものに繋げたようなものを作っていくというのが大事かと思う。

意見（委員）

世代交流というのはすごくある地区だと思う。私たちは商店街に住んでいるが、子どもが帰ってくれば挨拶し、ひとり暮らしのお年寄りに声を掛け、包括センターの方と交流もするので、色々な人との関わりをたくさん持っている。

ただ、商店街とすると、売れる商品、売れない商品、売ってもいい商品、売ってはいけない商品というのが結構ある。そういう商店もあるということを知っていただきたい。

また、利用してる方がだんだん商店というのを必要としない時代になったと思う。

私の家族が薬剤師で、亡くなった時に薬局をやめようと思ったが、町の補助で人工肛門を取り扱ってるお店だったので、人工肛門を取り扱うところが無くなれば使っている方は会津若松市まで買い物に行かないといけなくなり、命に関わることであったので、続けることにした。一番は、震災で色々大きなお店が壊れて、流通が滞って、ないものがたくさんあった時に、高田の商店街は古い荒物屋さんがあったり、色々なものが揃った。ただ、災害がある時まで自分たちがお店をやっているかということ、それだけの力はもうなくなっている。

地域の人やお店を利用する方が、本当にその商店街が必要だなと思ったら残ると思うし、必要がないと思ったら残らないと思う。

私は自分が商店街でお店をやっていてすごく楽しい。先日マルシェを開催したとき、普通は最低5名は来客があるのに、2日間で1名だった。周りは「あの店は賑やかだ」と思ったはずだが、私の店が賑やかだったのは買い物客ではなく交流をしに来る方。しかし、それも賑わいの一つである。ただ、自分の場合は夫が外で働き収入を持ってくるという利点もあり、お店のお金だけで生活しないといけないわけではない。

賑わいというのが、商店街にとって本当に何が幸せかを考えるほうがよい。人がたくさん来てというのが、本当にたくさんの人に来られたら、商店の人は対処できるのか。商店だけが賑わうのではなく、人が動いてるということが素敵なことで、それによって商店が潤っていけばいい。

商店街に5年後何店舗残るかを話したことがあるが、3店舗くらいしか残らない。それは後継者がいないということと、建物が古いが建て直せるわけではないこと。商店街としても色々考えて努力しているが、商店街で賑わいをもう一回というのは難しいと商店に住んでいて思う。

子ども、若い人、お年寄りのバランスがよくないと上手く回っていかないと思う。

意見（委員）

賑わいは必要だと思う。賑わいを戻すという話だが、車社会であつたりネット社会であつたり、大分生活環境も変わっているので、もう一回戻すのではなく、賑わいを作るという方向で考えたほうがいいのかと思う。

賑わいを作るには、今までの施策と問題点について、それがどうだったのかを十分に検討して継続してやること。町の観光にしろ、色々な施策にしろ、10年20年のスパンで継続してやること。

いうのが見えない。例えば夏井川の桜にしても、20年30年もかけてやっと花開いて町の観光になっているという話を聞く。宮川の千本桜が全国的に有名になると期待していたが、だんだんしぼんでくるような感じがしているので、そういうところを考えていく必要がある。

また、最終的には人がいないとどうしようもない。人を呼ぶためには、人が住みやすいことが一つだと思う。そのためには働くところがないと、子どもたちに戻ってこいとはいづらい。

イベントも、5年6年で成果が出ないからではなく、20年30年のスパンで継続的に長い目で見ていかないと、人を集めるのは難しいと思う。

会津美里町は三町村合併で広いので、新鶴本郷高田の連携した観光も必要。単発では伊佐須美神社しかないという話もあったが、中田観音や法用寺の三重の塔などもある。向羽黒山は日本最大の山城だと言われるが、来た人は全然そのすごさがわからないので、町でお金を出して昔の向羽黒城の資料を基にした3Dゲームのような取組みを具体的にやっていけばいいと思う。

意見（委員）

そもそも、賑わい創出というのは、商店街に関してなのか、高田地区に関してなのか、会津美里町に関してなのかで変わってくると思う。

個人的には、移住するときに商店街を一回も見ておらず、今でも会津美里町の高田の商店街にあまり行ったことがないが、自分の後に移住してきた人も大体そういう感じなので、移住の際に商店街が栄えているかどうかというのは、人によってはあまり関係ないかもしれない。

商店街というのが一つの場としての論点なのであれば、それをどう使っていくかという話であり、そこに賑わいを生み出す必要があるかというよりは、そこを上手く使うことで人を呼び込み、賑わいをもたらすか。できるだけ若めで、できるだけ子育て世代で、今後長期的に何らかの形で町に関わってくるか仕事を生み出すかという人たちを、どれだけ呼び込めるかという話だと思う。そう考えると、商店街は使いようのある場所だと思う。それには色々な形があると思うので、まずその整理をしたほうがいい。

そして、どの地区に関して話をしているのかというところ。現実的に考えると、そんなに大勢の人はこないと思う。皆がまちなかに移住して固まるような形になるかと言えば、そういう経済力が商店街中心地区にはおそらくないと思う。スーパーマーケットと車社会になった時点で小さい商店は基本的にものすごく厳しい戦いを強いられる世の中になった。安くないといけませんが、安いと儲からない。商品の設計が外向けなのか内向けなのか、経済を回すという意味においてはここは相容れないところで、町内向けにビジネスをやる場合、尻すばみで終わってしまうことが現実的には考えられる。

町外の人を観光で呼ぶという話になると、私たちは観光コンテンツを上手くPRできていたりたくさんあるかと聞かれたときに、京都や仙台や会津若松など、もっとわかりやすくアクセスも良い場所と戦わないといけなくなってくる。そこと比べて観光で勝てるかと言うと、費用対効果が悪そうという感じがある。

個人的には、住んでいてすごくいいまちだと思う。友達や大学生が大体3日から2週間くらい毎回滞在していくが、すごく元気になって帰っていく。滞在中に農業と一緒にやったりするが、ちょっと暮らしてみようということをしたときによさがわかるまちだと思う。

そうすると、現実的なシナリオとしては、観光で来るというよりは、体験として暮らしてみようような仕掛けをどう作っていくか、それは何をしながら暮らすのか、誰をターゲットにするのかというところ。

都会でつまらない仕事をしている、いい就職先がない、全然ワクワクしない大企業に内定をもらっているという学生など、ものすごく疑問を持ってる若者がたくさんいて、そういう人たちが結構来る。皆その場でここに移住とはならないが、こんな場所があってこんな暮らしができるんだと、非常に印象に残る。そこから会社で2～3年働いて心身疲れ果てたときに、あの場所ですごく良い経験をしたことがあったと思い出し、その中の一部の人が来るような流れが多い。都会の生活が今結構厳しくなっていて、あまり達成感が持てない仕事で世の中が溢れている中で、会津美里町が、暮らしてみる場所なのか、子どもだけでも夏休みに一時的に住ませてあげる地域留学のような制度に本腰を入れてやってみようなのか、そういう仕掛けを作り、その時に例えば商店街の空き家を活用して担当の人が一括して面倒を見るとか、そういう形はあると思う。あくまでも割と細々と始めてスケールも大きくならないが、来た人にはすごく濃い体験が提供できて、それを5年程度続けるとかなりコアなファンができるので、そのコアなファンを広げていくという方向性が、皆でやっていくとなれば現実的だと思う。

意見（委員）

今の意見にはすごく賛成するところが多い。

実際に移住される方も、賑わいや買い物物がしたくて来るわけではなく静かなところに来たい。会津若松市に一回来たが、つまらないと言って郡部である会津美里町に来る。

観光が上手くないとか半農半商で商売上手ではないというのはこのまちのすごく良い個性だと思っていて、それを曲げてまで観光客を呼び込むとか無理にでも稼ごうというのは、おそらくすぐ破綻する。そもそもの気質で、半農半商だからゆったり鷹揚に構えていられる。今回のマルシェの時のように「いいよ土地貸すよ」というゆとりがあるように、高田エリアの豊かな土地と豊かな農があり食うもの困らずプラスアルファで何かやるというのは、このエリアの強み。

ただ、去年商店街の空き店舗調査をしたときに、使える空き店舗がほぼなかった。前のほうのお店は空いているが後ろは住んでいるという現状があったので、丸々1店舗を借りるのは難しい。店舗をまちやどなどの拠点にしてエリアを歩いてもらうのは理想だが、今の状態だと間借りの方が現実的である。間借りでお店をスタートアップでやってみたり、用地とチャレンジしたい人を上手くかけ合わせてみるほうが、希望者はたくさんいると思う。

ぱっとせず、どんどんアピールしないところを強みにしたほうがいいと思っていて、鷹揚さ、誰かを受け入れる懐の深さもこの町の良いところだと思っているので、失くして欲しくない。

質問（委員）

高田地域ということなので、高田地域全体で考えるという方向でいいのか。

回答（事務局）

エリアはあくまで商店街など401沿いのところ。ただし、それを活かすには他の地域も、という波及はあると思う。

意見（委員）

会津高田駅から美里蔵まで歩いて調査したが結構な距離なのでその中でも絞ったほうがいい。

説明（事務局）

全体ではなく、公民館跡地も一つだが、横町通りや空き家のある呉服屋の通りがおそらくかつ

て一番繁栄したところだと思うので、そこをどう利用すればこの地域が良くなって、町全体に波及効果があるか。

質問（委員）

賑わい創出協議会とは、公民館跡地の有効活用を中心とした商店街づくりという感じだと思っていたのだが。それによって意見が全く変わって来るのでは。

回答（事務局）

公民館跡地の利用はサブテーマ。あくまでエリアがメインテーマ。

エリアで、公民館跡地をどのように使うかというのは推進力だと思ってもらえばよい。この地域に賑わいを、移住・定住移住までいなくても、人が集まったりできるような施設をつくれば、それが定住に繋がったりするのではないかと思う。そのためには、どのように空き家を活用するかなど、色々出てくると思う。

質問（委員）

人がある程度集まってきたら必要な商店街もできてくるのではないかという考えと、人が商店街に来ることによって定住者が増えるのではないかという考えのどちらが先かについては、人を先に集めるのではなくて、商店ありきで人が集まることをイメージしてということか。

回答（事務局）

商店なのか否かというのはあると思う。商店にこだわる必要はない。

意見（委員）

お金という意見があったが、お金で来た人はお金で出ていくので、あまりお金で競争しないほうがいいと思う。今、全国でお金を出している。お金で来る人は他にいい条件があれば移る。お金の切れ目が縁の切れ目なので、お金を湯水のように出してもいい投資にはならないと思う。

回答（事務局）

お金も、一つの方法ではあると思われる。

意見（委員）

一つの方法だが、人の質は落ちると思う。田舎に来ることができる人は、割と選ばれし人というか、ある程度スキルがあるとか、東京に住むよりもワンランク上の人でないとローカルな暮らしはできませんくらいの感覚でいたほうがいいと思う。「田舎に行ってやるんだから金を出せ」と下に見てくる人を相手にしても仕方がないような気がする。

そのため、そのエリアの使えるポイントを提示してあげる必要がある。例えば、誰かと誰かがコラボレーションして、水曜日はこの商店でチャレンジショップをやっているとか、他所から来る人を受け入れる余地を提示するだけでも違ってくると思う。お店を持ちたいが持てない人もいるし、起業したい人は毎年たくさんいる。ただ、全員が店舗を持てるかということおそらく持てないし、持てても潰れていくという現実もあるので、初期投資コストを抑えて、自己実現なり自分の事業を始めるための余地を与えてあげるだけでもすごく優しいエリアだと思う。

質問（委員）

会津高田駅前から3km、401沿いの商店街を、町はどのように思っているか。
どういうところだと動かせるのか、町として考えはあるか。

回答（事務局）

後継者がいなかったり、次へ継承できなかったりというがあるので、住んでいる人が文化的な活動ができるような施設は最低限残さないと、人はどんどん流出していくばかりだと思う。

賑わいというのは、祭りなど、人がそこにいてよかったという思い出なども一つの付加価値になると思う。祭りも人がいないとできないので、人が残り賑わいができるように、あのエリアを何とかしたいとは思っている。

お金は無尽蔵ではないので、どこに重点的に絞ってやっていくか、どのような使い方をすれば一番効果的かというのを、もう少し皆さんにお聞きしたい。

意見（委員）

先ほど伊佐須美神社しかないと言ったのは、車で移動するのであれば会津美里町も色々あるが、歩いて回れる場所がそこしかないということだが、何もなくても、そこにしかないものがあれば皆見に行く。私の商品も店でしか買えないので、直接受け取りたいという方は北海道から沖縄、どこからでも来てくれる。

そこにしかないもの、食べられないものがあるといいと思う。

意見（委員）

資料の第1回目のアンケートの質問を見ると、町がどういうことを皆に期待してるのかというのが何となくわかる。

私がどういう賑わいが必要と感じるかというと、自分や自分の周りにとって、将来こうあって欲しいと思うもの、なくなったら困るものが第一にあるべきと思っている。必要とされれば残るので、まず我々が必要とするものが何なのかを考えること。さらに、こういうお店ができたなら利用したいとか、外から遊びに来た人に紹介したい、連れて行きたいような店ができれば、自然と賑わってくると思う。

また、賑わいというのは、見える賑わいと見えない賑わいがあると思う。人がたくさんいる賑わいもあるし、そこの店の商品がネット販売ですごく売れてるという賑わいもあると思うので、目に見える賑わいを求めなくても、他の人が欲しがるような賑わいがあってもいいと思う。

説明（事務局）

アンケートの話が出たが、資料の内容で町民アンケートを実施する予定である。内容について意見があればお示しいただきたい。

意見（委員）

商店街の中に、昼の商店街・夜の商店街があってもいいと思う。夜の商店街を想定したときに、騒音に関する項目も入れてもらいたい。

意見（委員）

回答者の年代を追加してほしい。

質問（委員）

賑わいの定義というのがわからない状態だが、お祭りのように人が来る状態なのか、観光客が

来る状態なのか、人が住める状態なのか、どんなイメージで賑わいを求めているかというのは、回答者に任せるのか。

回答（事務局）

そこはまっさらな状態を考えている。

質問（委員長）

アンケートの対象年齢は？

回答（事務局）

無作為抽出の 500 人で、年齢は、10 代から 60 代くらいまでを想定している。

意見（委員長）

10 代の場合、小学生などは、回答をするときに悩んで回答できないところがあると思われる。小学生が考える賑わいとは意味が違うと思うので、そういう部分を検討していただきたい。

回答（事務局）

抽出の仕方をもう少し考える。

意見（委員）

高田地域の中心市街地というのが、どこを指すのかを具体的に書く必要がある。

回答（事務局）

アンケートに地図を添えて送るようにする。

意見（委員）

401 沿いを中心と思っているかは、おそらく人による。世代によっては、高田中学校前の 1 号線が中心市街地だと思っているし、安田のリオンドールの辺りが中心だと思う人もいるので、具体的なエリアの指示をしてもいいと思う。

また、「するべきだと思いますか」という書き方について、「べき」という表現は義務感が出てくるので、個人の意見の反映をするのであれば使わないほうがいいと思う。

意見（委員）

賑わいという言葉を使わなくていいと思う。

単純に中心地についてどうなって欲しいかをオープンに聞く。おそらくエリアを指定しなくても中心地にどうあって欲しいのかと聞けばそれらしい答えが出てくるので、商店街の具体的にどこからどこまでかというのがある程度関係なくなるところもあると思う。

第 3 問の商業的な賑わいや飲食店を中心とした賑わいというのはやはり曖昧になるので、飲食店が増えるとか、飲食店が買い物客で溢れる、でもいいと思う。

賑わいという言葉を使うことによって不自然になっている部分があると思う。それが賑わいかどうかは町側で判断するという形にして、もう少しシンプルに聞いてもいいと思う。

⑥ 1 回目のアンケートについて 〆切

⑦ にぎわい創出のための旧高田公民館跡地利用

説明（事務局）

意見を踏まえ事務局で考えて、アンケートを実施させていただく。

旧高田公民館跡地利用の話については、今日はやらず、次回に触れることとする。

説明（委員長）

アンケートについては、基本的な考え方はこの通りだが、今ほどの色々な指摘も踏まえ、調査を行うということでよろしいか。

意見（委員）

（全員了）

⑧ その他 次回

説明（事務局）

次回は、アンケートを実施・集計した上で、8月31日に開催予定。

6. 閉会

■ 令和5年度第2回高田地域まちなか賑わい創出協議会 開催記録

日時: 令和5年 8 月 31 日 (木) 18:30～

場所: 会津美里町役場 2階 大会議室

出席者: 16 名 / 18 名

事務局: 6名

1 開会

2 委員長あいさつ

3 前回の振り返りと本日の流れ

A、B、C、3班のグループワーク

4 協議事項

① 第3次総合計画の中での位置づけ、踏まえての高田地域の現状
(事務局より資料により説明)

② 1回目のアンケートの分析
(事務局より資料により説明)

③ グループワーク

A 再確認「あなたが思う“にぎわい”はなんですか？そして、この地域にあって欲しい“にぎわい”はなんですか？」

B その“にぎわい”を創り出すためには、どうしたらいいですか？

C そのためにはどのような機能をもった施設が必要ですか？

④ 各班の発表

〈A班〉

まず、にぎわいを作るために必要なことは町の人たち自分自身が楽しむこと、よそ者を受け入れるという意見が出た。

「にぎわい」とは、①中(町内)で生まれるにぎわい

②外(町外)との交流で生まれる、「にぎわい」がある。

そのにぎわい①を創出するためには、子ども(小中高生)が町の中で集まれる場所が必要である。その場所に子どもたちが集まれば、大人も集まり世代間の交流が生まれる。そのためにはまず、商店街の空き店舗がどういう状況であるかの調査をする必要がある。また、ただ単に集まる施設ではなく、安い値段でたこ焼きだとかたい焼きだとかちよっとした食べたり飲んだりできるとなおい。

にぎわい②を創出するためには、イベントの開催が必要。例えばデコトラ(派手に装飾した車)の展示といったコアな(マニア向け)イベント。また、そこでしか買えない一点物の販売をするイベント、月別でさまざまな作家さんの作品を展示するイベントを開催し、SNS等で発信をして外からの交流を創出する。

やはりまずは、商店街の空き店舗状況を調査し、そこに①のための施設を設置可能かどうか町と相談しながら行っていく必要がある。

〈B班〉

視点としては、内向きと外向きの視点がある。内向きは地元に住んでいる人、外向きは外の人。

「にぎわい」とは満足度に(にぎわい＝満足)に置き換えられ、まずは住民の人が満足することが大切であり、住民が満足すればにぎわいも創出される。内向きを充実させてから外向きを考えればよい。大々的にお金を使って宣伝するのではなく、地域のもの、内向きの魅力をブラッシュアップすれば、外向きの観光客に対する魅力にもなってくる。御田植祭りの太鼓台を保管し、祭ばやしを練習するような施設にしたり、ガーデニング、クラフトアートなど個人の趣味で行っているものも宣伝していけば、外から観光客を呼び込む「にぎわい」も生まれるのではないかな。

大事なものは長い目で行うこと、子どもや若い世代をターゲットとすること。子どもや若い世代をターゲットにすることで、親も集まり世代間交流ができる。交流が生まれることで住民が満足し、自然とにぎわいも創出される。日常的ににぎわえば、こども食堂等で地域の中でお金が回る仕組みを生み出すことにもつながる。

また、公民館跡地については道の駅のような一つの施設ではなく、小さくてもいいから様々な機能を持った施設のほうがよい。場所を提供し、様々な人がお店をやる。そのお店が継続できなかったとしても、また別の人がその施設で何かをできるような仕組みにすれば、うまく利活用できる。

まずは、どの場所が使えるのかを知らないとな話ができないため、商工会と連携して空き店舗状況を調査にマップに落とし込み、どの場所が使えてどの場所が使えないかを「見える化」する必要がある。

〈C班〉

まず住んでいる人が行きたいお店、あのお店にはあの商品があるから私はそれを買
いに行く、あの店のおばさんに会いに行く、という想像ができるくらいに町の中で情報
が浸透していない。高齢者のように昔から町のことを知っている人ならその情報が分か
るが、若い人は情報を知らないどころか、商店街に足を踏み入れたことがない。なので、
小さなコミュニティを少しずつ作り上げていくことが大切。あの人のお店に行って物を
買いたい、お店に行ってあの人と話したい、そういった欲求があるから商店街に行く目
的になる。

イオンモールのような商業施設だと、ただ消費するために行くことが目的になってし
まい、会話のキャッチボールが生まれにくい。他の商店街が盛り上がっているのは、きち
んとコミュニケーションが取れているからだと思う。

にぎわいを創出するには、人が見えるコミュニティづくりが必要。ただ単に買い物をし
にいき、レジで会計するのではなく、お店に行って店主にお金を支払うような、会話が
できる買い物の仕方であったり、地元の人が野菜等を販売できる(にぎわいを創出す
る側に回れる)場所があることで、コミュニティをつくることができる。

そのためにはまず、商店街で気軽に使用できるフリースペース(軒先・お店の端・駐
車場・空き地など)はどこなのか洗い出しを行い、そのフリースペースを誰にどのくらい
の料金を借用できるのか情報をまとめる必要がある。そうすることで、そのフリースペー
スで地元の人が取れ過ぎた野菜等を気軽に販売できる仕組みをつくることができる。
売る側も買う側も気軽に参加できることが大切。

施設は箱物ではなく、使用しやすいフリースペース、空き店舗を活用できるとよい。
ただ単に商品を買うのではなく、そこに行ってあの商品を買うといった流れをつくるこ
とが大切である。

⑤ 委員長のまとめ

やはり地域の人が一番メインになるのかと思う。「交流」や「ふれあい」とテーマに、ど
ういうものを展開していけばよいのかを、次回開催の際に意見を出し合えたらと思う。

5 その他

(事務局)

第1回ワークショップを9月29日(金)に、第2回ワークショップを10月26日(木)に
開催する。2回のワークショップを経て、10月26日(木)に第3回高田地域まちなか賑
わい創出協議会を実施予定。

6 閉会

以上

高田地域まちなか賑わい創出協議会 第1回ワークショップの議事メモ

と き 令和5年9月29日（金） 18：30～

ところ 役場2階大会議室

内 容 「あなたが思う、にぎわいとは？」

1回目のワークショップでは、30代から70代までの幅広い12名の参加がありました。六歳市という商業的な交流が基礎となった高田地域の成り立ちの歴史的背景から始まり、この地域にかつてあった、お祭りや商業的なにぎわいを振り返り、それを踏まえて、高田地域に「にぎわい」を創り出すために大事なことやどうやって創り出したらいいかという点を話し合いました。

以下、意見の要約です。今回は洗い出しに特化したため、まとめはありません。

福祉（30代） 昭和のカスミソウなど特産品を活かした誘客。よびこめる特産品って？

福祉（50代） 会津で一番昼間に人がいない町、リーサスなどデータに基づいた取り組みを！

消防士（30代） 子どもに思い出をつくるスペースを！思い出の味、家族や友達との経験が生み出せない町。次世代の乗り物（自動運転、二次交通）、駐車場（いきやすい理由）。

自営業（50代） 高田は独裁者を立てずに自治によってピンチを多様性で乗り越えてきた町。コミュニティーが人の流れとにぎわいを生み出してきた。

農業（70代） 道の駅のような地場産品や農産物の出口。だからといって、旧高田公民館に道の駅を作れということではない。街中の広い象徴的なスペースの有効活用を望む。

自営業（70代） 大きなハードは要らない。役場の新庁舎はまちなかからは遠い。老人無理。お祭りの練習や打合せ、近所の小会議の場、大型バス、きれいなトイレ、選挙投票所

自営業（30代） 神社には人は来ているが、歩いていける範囲に飲食、土産等、目的がない。老若男女に関わらず、ハードルの低いチャレンジショップ、レンタルスペース（コバコ）。

自営業（60代） 三十三観音、伊佐須美神社、天海など歴史の魅力があるので、その有効活用を！他の町では、人がくる神社に街中へ誘導させる看板があり、情報発信がある

自営業（50代） 昔はイベントでたくさん人が来て利益がでた。あやめ祭りの街角マルシェにヒントがある。事業継承もネック。血縁以外の継承の可能性もある。

自営業（70代） 六歳市など、この町の成り立ちを振り返るとそこにヒントがある。最低限、現状の商店が成り立つ取り組みを！かつての「いづつや」のような飲食を介在したコミュニティー。公民館跡地はそれなりに広い、多目的な活用と天海大僧正の有効利用も視野に

自営業（20代） 都会のにぎわいを避けてきた。ただこの町のお祭りは魅力的

高田地域まちなか賑わい創出協議会
第2回ワークショップの議事メモ

と き 令和5年10月13日（金） 18：30～
ところ 役場2階大会議室
内 容 「にぎわいのターゲット、キャッチフレーズは？」

70代男性B 空き店舗の活用、住んでいる人がいると貸しにくい。
駐車場もない。昔は、大通りにも車がいっぱいあった。やはり横付けできないと、人はこないか？にぎわいが、なくなってる。もはや、漢方薬では対処できない。外科的手術が必要。

70代男性A 衣食が短い期間でサイクル、消費。外科的手術というが、私はじわじわくる漢方薬の処方望む。駐車場は、やはり必要。広い、入りやすい、出やすい。

70代男性B 駐車場を作るにしても、商店自体に利益がない。後継者もない。駐車場をつくる設備投資できない。外に外貨を稼ぎに行く人が多い。

70代男性C 10年後の未来の想像がつく。多くがなくなってしまう。昔の商売の再現は無理だと思う。その上で、長いスパンでどうするかを考える。まちなかの公共施設を外にだしてしまうと、人の流れがかわる。役場がいい例。役場はすでに移転してしまったので、コミュニティ機能をもった公共施設は、まちなかにある方がいい。
人が流れるような仕掛けとして、天海大僧正はひとつのきっかけになると思う。

70代男性B この前新聞で郡山から伊佐須美神社へくるツアーの募集があった。神社仏閣はやはり、きっかけになるのでは？そこに天海さんをくつつるのはどうか？バスが止まれる、駐車場、きれいなトイレ、そしてそこに地場産品を売る場所があればいいのでは？

70代男性A 龍興寺にも、国宝を見に大型バスがきている。大通りから歩いてきている。

70代男性B、店の商品も実際に売れている。ありがたい。

70代男性C それは、いい傾向。そういうコーナーを作る。目につくようなじげんTシャツなどの売り場が欲しい。外から入ってくる仕組みが必要。

70代男性B、昼間人がいないのを観光客でおぎない、夜は仕事帰りの人がまちにでる

70代男性 A 歩いて楽しめる空間をつくるのがいい。歩いて楽しい町、面白い町がいい。寄り道をさせるシステムをつくる。

30代女性 伊佐須美にきて、歩いて町に行く目的がない。

70代男性 A 歩行者専用道路があるといい。道路をアスファルトではなく、ブロックで見た目のいい道路にしたらいい。それを中学生に作らせるのはどうか？アダプトロードという、地域の管理方法があるので、活用してはどうか？つくった子供たちの記憶と思い出になる。道路も物も大事にする教育になるはずである。人が歩きたいと思える、道路をつくるのはどうか？

70代男性 C 歩いて回遊させる何か？が必要。

70代男性 A 町には、たくさんの文化財がある。それらを結んだモデルルートをつくれればいい。

70代男性 C 調べると町に歴史がある。あおいキャンデー屋さんなどのその例。高田ではじめて、ポストがたった場所。他にもあるが、いろいろな歴史がある。それを活用できないか？
じっくり取り組むのがいい。

70代男性 A マンガなど活用し、こども層に訴えるのは？

30代女性 歴史などへの関心は、反応が分かれる。街並みがレトロ再現だといってみたいが、資料としてあるだけだったらいかない。

70代男性 A マンガだとストーリーがある。そこで覚える。

30代女性 ただあるだけ、作っただけだと、若い層に興味はわからない。

70代男性 C もちろんそうだが、今までそういう取り組みをしてこなかったもので、そういう取り組みもあっていい。

70代男性 B 伊佐須美、お文珠様、国宝、天海、いかにして歴史を活用して人を呼ぶか

70代男性 A 人を呼ぶきっかけは、なんでもいいと思う

70 代男性 C そうやって、関係人口を増やしていったほうがいい。移住にこだわる必要はない。

みんな 食べるところと、トイレは必ず必要。

70 代男性 C 長野県小布施町はモデルケースだと思う。行くたびに代わっている。若い人がどんどん変えている。

70 代男性 A 道路が栗の木でできている。見た目にも環境にもやさしい。

70 代男性 C 葛飾北斎の美術館もある。40 年 50 年前に田んぼの中に美術館をつくった。それが核になった。若い人が来るかどうかというのは違う視点だが。若い人が中心となって、いろいろな国際会議を行った。

70 代男性 A 横町通り、電柱なくなったが、後ろに移しただけ。地中化は費用がかかる。無電中化をして空間を演出するにもひとつの案。

70 代男性 C それも含めて、町の住民自身が考えなくてはならない。

70 代男性 A 町の将来を考えていく人数もすくない。関心がないのではないかな？

70 代男性 B 御田植もそうだが、子どもたちが出れば、おじいちゃんおばあちゃんなどの家族もでてくる。そういったお祭りを活用するのもいい。伊佐須美神社の風鈴まつりもよかった。

70 代男性 C 風鈴祭りは町の中でどうか？現在のような造花では効果が薄い。全体でやるには無理がある。商店の人を巻き込む必要がある。自主性が必要。まつりは、人を集める。

70 代男性 B 昔は商店の人もそうやっていた。各商店が自分で努力をしていた。まちかどマルシェの例もある。

30 代女性 商店の人のやる気があって、やる分にはいい。継続していくには、行政の支援は必要。自分たちがやるという分にはいいと思う。広がってやる企画もあると聞いている。自分たちがやるという気運までにはなっていないと思う。

70 代男性 B 今度商工会でやる「商工祭」も、マルシェのような形になると聞いている。これが大きくなって広がっていくといい。自分たちに何ができるかを考えるいい機会になる。

70 代男性 C 行政の支援は、3 年間。もう少し長い目で見て欲しい。

70 代男性 A 前にやっていたバザールの例もある。町外からもたくさん人が来ていた。マルシェとはそういうもので、気楽にできる体制があるといい。新しい役場の前に広大な土地がある。あそこを利用したらいいのでは？

70 代男性 C たしかにマルシェはいいが、あのやり方が時代にあっているのか？というのも疑問。

70 代男性 A あそこにはかないと買えないという特産品があればいい。本郷のせと市、あれも特産品を売るというひとつの例。中学生も学校で作っていたものを売っていて、いい経験にもなっている。

30 代女性 大俵引きも現在の場所ではなく、もっと中心市街地で行っていた。御田植も街中を走って、もりあがっている。まつりに合わせて街中でやるのがいいと思う。

70 代男性 A 昔子供のころは、夕方、かがり火の中でやっていた。非常に勇壮だった。なんであれはやめてしまったのか？

70 代男性 C かがり火の中での俵引きはいい。しかし、イベントの開催時間の問題である。来訪者のことを考えていない。待ってる場所もない。朝から夕方までの時間が長すぎる。坂下町は昼。人がたくさんくる。賑わい方が違う。もっと考えたほうがいい。集中してやったほうがいい。場所の変遷も考慮して。当初の場所から、なぜ、離れたんだろか？そして、露店も少ない。坂下はたくさん来る。日時の固定を解除したのもどうかと思う。

70 代男性 B 俵をまくなど、安全に配慮して、場所を移動した経緯もある。今の場所は、スペースもあり、安全である。

30 代女性 まつりで盛り上げることはできないか？

事務局 今までは、祭りやイベントなどの観光客を呼び込むという外向きの視点である。その視点も大事だが、住民向けの内向きの視点も大事だというのが、協議会の方の意見であった。イベントや祭りに頼ることなく、継続的に日常的に住民が集うにはどうしたらいいかという視点で話し合っていたきたい。

70 代男性 B やはり、子どもだと思う。

70代男性 C イベント的なものを日常的に行わないと、人は集まらないと思う。飲食ももちろん含まれる。失敗もある。あわせて外向きのイベント、核となるものも並行してできるようになれば、人は集まると思う。それがない。まずは内向きだと思う。

70代男性 A 外からの人を楽しませることも大事だが、やはり内側の人が楽しむことが大事。高齢者は、なかなかできないので、お茶をのんで口を挟む傾向になってしまうが、今はお茶をのむ機会、スペースさえもない。だからこそ、公民館的な機能がそばに必要。なかなか維持管理はたいへん。なので、地区で集会所をもっているところは少ない。

70代男性 C そのために、この新しい庁舎を作った。そのはずだった。

70代男性 A だけど、やはり遠い。年寄りには行き辛い。新庁舎のような大規模なものはいらないので、トイレと喫茶スペース、給湯設備ぐらいあればいい。

70代男性 B 最低限あれば、プレハブ的なものでもいい。代替的にお金をかけなくてもいいという意味。まずは、スペースを確保することが大事。そこに、子どもも大人も集まる仕組みをつくる。いけば、誰かがいるようなスペースがいい。

70代男性 C それを複合化させる、核になるのが天海大僧正だと思う。生誕の地に、顕彰するスペースとこれまで話してきたコミュニティスペースを併設する。誰もがつどえる喫茶スペース、その奥に天海さんの功績の展示スペースを複合させる、龍興寺などを紹介してもいい。

70代男性 B 行けば誰かがいて、子どもも大人も楽しめる場所がいい。

70代男性 C 天海さんの石像の下で、子どもたちが遊びまわる光景は素晴らしいと思う。

30代女性 ワークショップでできた意見の、子どもたちの思い出を作る場所がないという意見に共感する。公民館跡地は、屋内の遊び場が欲しい。喜多方市のめぐぶらざのような施設がいい。めぐぶらざの中には会議室もあり、保護者の見守りスペースもあるので、わざわざ喜多方までいく。高田の街なかに同じような施設ができれば、いきたいと思う。近くにできてくれれば子供も遊べるし、親もお茶ができる。

チャレンジショップの案もいい。空き家を活用できれば、若い挑戦者がでてくると思う。若い世代を呼びたいのであれば。こういった取り組みも必要。

70代男性 C 本郷のコバコ（レンタルのフリースペース）はそういう施設だと思う。

30代女性 コバコは、利用料金がかかるので、毎日はいきづらい。行政の支援などあれば、手ごろに、もっと費用を抑えられるのでは？やってみたいと思える場所があれば、若い挑戦者は出てくると思う。そういうところで、体験やワークショップができれば、思い出を作れると思う。そういう、場所がない。

70代男性 A 若い人たちは小物をつくっている人がいる。

30代女性 美里蔵で物をだすところはあるが、自分で売る所はない。

70代男性 A そういうクラフト系の人も巻き込むことも必要。

70代男性 C 空き店舗の活用が望まれる。となると、先ほどの、住民の居住スペースとの隣接がネックになってくる。駐車場もしかり、それらをクリアできるような行政の支援が必要だ。

事務局 飲食店を含めた事業承継の問題もある。

70代男性 B 商工会のバックアップと、行政の支援が必要だ。

事務局 今の段階での、キャッチフレーズは？

70代男性 C コミュニティー、喫茶五スペース、駐車場、キーワードはいろいろ持っている。そしてキーワードは、段階的に変遷するし、していい。「行ってみたい町、歩きたい町」

70代男性 C 小布施はおしゃれな街がキーワード。若い人が考えて、取り組んでいる。行政もそれを取り入れている。若い人の意見が活かされている町。

70代男性 A 年寄りの意見よりも若い人の意見を優先したほうがいい。我々は、過去のいい時も見ているが、若い人のあれがあつたらいい、これがあつたらいいというのが大事。反対に何も無いのいいという意見もあるかもしれないが・・・

70代男性 C 小布施がまったくその例。マルシェは、ひとつのいい例。

30代女性 あやめ祭り 40周年と6月開催で、他に大きなイベントがなかったというのも功を奏した。

70代男性 C ワインフェスも前のワイン祭りと変わった。子どもから高齢者まで幅が広がった。やり方が変わった。

70代男性 A 店があれば人がくる。お店でお茶をのんで、人が集まっていた。

30代女性 気軽に集まれるスペースが欲しい。

70代男性 A 駄菓子屋もそのひとつ。子どもは駄菓子屋が楽しい。

70代男性 B 駄菓子屋がなくなった原因として、スクールバスが挙げられる。寄り道をしなくなった。昔は、駄菓子屋のおばちゃんが子供たちの顔を覚えて、帰り道などの安全確認をしていた。そういうものなくなってしまった。

70代男性 A やはり、ターゲットは、若い人、子ども、子育て世代。

70代男性 B wifi は、全域に入ったと聞いている。スマホ対応も大事。

30代女性 観光客にわかるような周知が大事。パンフレットなどは、ほぼ見ない。観光客をはじめ、誰にでも親切な町というキャッチもいい。

70代男性 A 広報もそうだが、詳しくは HP という案内が増えてきた。あれはよくない。どちらも対応してほしい。

30代女性 高田のインフォメーションセンターは、ひとつのコミュニティスペースと言える。お茶もできるし、お弁当も帰る。近所のお年寄りが中心だが、人が集まる環境がある。

70代男性 B やはり、飲食か？機械や衣類はだいたいネット。飲食は、その場所に来ないと食べれない。

70代男性 B 酒蔵に来た人がいたが、駐車場や飲めるスペースがない。公民館にバスを止めて、そういった飲食スペースがあればいい。

30代女性 夜に気軽にでかけるスペースもない。

70代男性 A 若い人向きだとスイーツか、お酒は子供向きではない。

30代女性 時間帯で変えればいい。お酒は夜にだせばいい。

70代男性 C コロナも明けたので、変わってくるはず。

70代男性 A 旧公民館の近くには、お菓子屋さんが集中している。そこに集めるというのもひとつの手。お菓子があれば、カフェなどあってもいい。

70 代男性 C そんなたくさんの機能をプレハブ的なハードではまかなえないかもしれない・・・ここは、まず天海さんでいかさなければならぬ。

30 代女性 それは大事だと思うが、若い世代は天海さんをあまり知らない。

70 代男性 C 若い人、子ども、子育て世代、コミュニティー施設を中心とした複合化させれば、人は流れてくる。一カ所に集めてしまうと、回遊性が失われる。

70 代男性 A 最初は、人が集まるスペースから始めていくのがいいのではないだろうか。最低限でいい。そんなに大きなものはいらない。

30 代女性 子育て世代は、屋内の遊び場が欲しいといっている。めぐプラザまでの規模とはいわないが、それなりの広さがあり、簡単な運動ができればいい。

70 代男性 B 学校の体育館でもいいのでは？

30 代女性 遊具があり、無料で開放してくれれば、最初はそれでもいい。

70 代男性 C そういった制度はあるが、登録制。

30 代女性 気軽にいけて、安全であればいい。

70 代男性 C 旧高田温泉あやめの湯を活用するとすれば狭いか？

30 代女性 めぐぷらざは参考になる。親も子もストレス解消になる。

70 代男性 C だんだん、まとめの段階だが、今日はまとめられないと思う。
あくまで概要として、案のひとつとして、今後の参考にしてほしい。
ワークショップの結果で紹介できないと思う。
大事なキーワードがいくつかでてきた。それが成果だともう。

事務局に提案だが、事前に協議の内容を知らせたり、前の参加者への周知はすべきだと思う。多くの人から広く意見を集めるようにしてほしい。

以上